

NPO 法人

第54号

芦安ファンクラブ通信

南アルプス地域の自然を愛するすべての人達に対して、地域の人々との交流を通じた南アルプスの環境保全及び適正利用に関する事業を行い、もって、南アルプス市芦安地域の活性化に寄与する。～芦安ファンクラブの理念～

特定非営利活動法人芦安ファンクラブ 事務局 南アルプス市芦安芦倉 1589-8 大滝要造

TEL 055-288-2531 FAX 055-288-2533 HP <http://ashiyasu.com> Mail afc3193@nus.ne.jp

芦安ファンクラブの活動と ユネスコエコパーク

芦安ファンクラブ副会長 塩沢久仙

「南アルプス」と呼ばれる赤石山脈は山梨、長野、静岡にまたがり、南北 120km 東西は中央部で 40km に及び 3000m を越える山々を 13 座も有しています。その山容は大きく、森林限界までは見事な森に覆われ森林の垂直分布の典型が見られます。また、この山は地球の歴史を学ぶ上でも貴重な教材を提供してくれると共に、キタダケソウを始め日本一と言われるたくさんの高山植物が咲き誇り、ライチョウの親子が無心に遊ぶ別天地を提供してくれる日本を代表する山岳地帯です。

1964 (昭 39) 年 6 月 1 日、国はこの素晴らしい南アルプスの自然保護と適正利用を促進するために、主要な部分を国立公園に指定し、本年 50 周年を迎えました。この節目の年、ユネスコはこの南アルプスを「ユネスコエコパーク (生物圏保存地域)」に登録しました。保全の行き届いた山岳自然環境の素晴らしさだけでなく、この山々に係わった人々の歴史や文化の継承と発信がなされ、さらに自然と調和した社会活動や地域社会の発展が営まれていることが高く評価されたのです。

「ユネスコエコパーク (生物圏保存地域)」は自然の保全と利活用の調和を目的としています。そのことを念頭に私達 NPO 法人芦安ファンクラブの活動を改めて見直し、未来に引き継ぎたいと思います。

芦安ファンクラブは、南アルプスの自然を愛するすべての人達に対して、地域の人々との交流を通じた南アルプスの自然環境保護と適正利用、それに山岳文化の継承と発信に関する活動を行い、南アルプス市の活性化に寄与することを目的として平成 11 年 2 月に任意団体として発足しました。平成 14 年からは特定非営利活動法人「芦安ファンクラブ」としてこの目的を達成するために、志を同じくする約 50 名の会員とともに、様々な活動を展開してきました。その主なものをここに紹介します。

①「登山教室」「キタダケソウ観察会」の開催。

かつて山岳会が成し遂げてきた登山学習や技術の普及が、未組織の登山者が増えたために十分に浸透せず山岳遭難が増え、マナーの衰退により健全な高山の生態系維持がおぼつかなくなることが心配され始めました。そこでこの課題を解決するために、自らも学び、安全登山と自然保護を目的として年 2～3 回の「登山教室」を開催し、この秋で 36 回を数えます。



登山教室・甲斐駒ヶ岳

②「自然保護活動」

南アルプスをこよなく愛する多数の会員や山小屋からの情報に基づき、関係機関と密な連絡をとりながら「高山植物保護パトロール」

「防鹿柵設置」「モニタリング・サイト 1000 事業」「ライチョウ会議」などを企画、実行。



キタダケソウ保護活動

③「山小屋指定管理」

南アルプス市営の山小屋である広河原山荘、長衛小屋、白根御池小屋の指定管理、運営と登山道整備、遭難防止及び救助活動、登山者へのアドバイス、各種情報の収集と発信を通じて来訪者の安全安心の確保。

④「自然環境と山岳文化に関わる各種イベント」の開催

自主開催や共催、協力等で積極的な取り組みにより「国民文化祭」「国立公園指定 50 周年記念事業」「各種教室やワークショップ」等の開催および協力。



国民文化祭シンポジウム

⑤「地域や行政との協働」

会員と地元住民や行政との協働により、地域の町づくりや活性化に寄与する。「学校登山」「開山祭」「やまぶき祭」「手打ちそば組織への協力」等。



やまぶき祭への協力

このほかにも、たくさんの事業を展開してまいりました。このような事業を一つ一つ見直してみると、私ども芦安ファンクラブは意識こそしなかったものの、正に「ユネスコエコパーク（生物圏保存地域）」の理念に見事に合致していることに驚きます。これを契機に、世界に認められた南アルプスの山々やその山麓をステージに、芦安山岳館、野呂川広河原インフォメーションセンター、山小屋等の施設を拠点として、ユネスコエコパークの理念にのっとり、今後も幅広い活動を積極的に展開してゆきたいと思っております。



明けゆく北岳

「ユネスコエコパーク」とは・・・

ユネスコエコパークは、「自然と人間社会の共生」を目的としています。世界遺産が「保護」を目的としているのに対して、ユネスコエコパークのねらいは「共生」にあります。地域の豊かな生態系や生物多様性を保全し、自然に学ぶと共に、文化的にも経済・社会的にも持続可能な発展を目指す取り組みです。ユネスコエコパークは日本国内での通称で、海外では「Biosphere Reserves（生物圏保存地域）」と呼ばれています。

◆ユネスコエコパークはその役割ごとに3つの地域に分けられています。◆



各地域での具体的な取り組みについては、ユネスコエコパークのHPへ！ <http://minami-alps-br.org/index.html>

心に響く体験を～芦安小学校自然体験教室～

ふるさとを登ることにより、ふるさと南アルプス市の大自然の雄大さ、優しさ、厳しさに触れ、

ふるさとを思う心を育てたいー

そんな先生方の想いから、南アルプス市立芦安小学校では、全校で自然体験学習に取り組んでいます。昨年度から、5・6年生の体験教室は楡形山と栗沢山を隔年で登ることになり、芦安ファンクラブでもガイドや自然観察のお手伝いをしています。今年は、7人の子どもたちと楡形山へ登りました。楽しかった1日をレポートします！ 記：中込景子

〈新トレッキングルートからアヤメ平へ〉

アップダウンの多いコースに「まっすぐな道作ればよかったのにね～」と子ども達。「うーん…登る私達からすればそうなんだけど、ここはたくさんの動物や植物たちのおうちだから、それをできるだけ壊さないように道を作ってるんだよ。」と伝え、「そっか～、あ！じゃあ“おじゃまします”って言わなきゃ！」と。そんな素直な感性がステキです。

〈アヤメ平から裸山へ〉

原生林の中を元気いっぱい歩く子ども達。樹齢300年といわれる天然カラマツの巨木の前では、「うわあ」と口を開けたまま。「近づいてさわってごらん」と言うとう目散に駆け寄って…。第一声は「300年前のおいがする～！」(笑)やわらかな時間が流れました。



〈裸山にて〉

ネットの中では、たくさんのアヤメや高山植物たちがおだやかに揺れていました。食害対策を始めて7年余り。関係者の皆さんの苦勞に思いを馳せていると、「ねえ、なんでネットがない方は何にも咲いてないの？」と不思議顔の子ども達。シカの食害の話をしただけでした。「みんなは、どんなお山がいい？」と聞くと「お花がいっぱい咲いてるのがいい！

でも、動物も好きだからシカさんもいてほしい！」と。そうだね、その理想を忘れないで。



未来を担う子ども達に私達大人がすべきことは、何かを教えることではなく、心に思い切り響くような豊かな体験を与えることかもしれません。素晴らしい感受性をもった子ども達と1日歩いて、そんなことを考えました。

子ども達がくれた感想を少しだけ紹介します

★ぼくがつかれていても「がんばろう」といつてくれたから最後までがんばって頂上までいけました。登るときも下るときも楽しい山登りでした。(6年男子)

☆草花を教えてもらうだけでなく、登山道のことまで注意を向けてくれたおかげでみんな無事に戻ってくることができました。楡形山登山で教えてもらったことをお母さん、お父さん、おばあちゃんに教えてあげたいです。(6年男子)

★ぼくの心の中に残っているのはアヤメです。シカが食べてしまったと初めて知りました。ぼくたちの知らないことをいっぱい教えてくれてありがとうございました。また来年、中学校で楽しみにしています。(6年男子)

☆山の中で一番長生きしている木にさわられてうれしかったです。上で見た花はとてもきれいでした。見れてよかったと思っています。だけど昔のけしきと今のけしきをくらべてみたら昔のほうが花が多いので昔の量にもどってほしいです。(5年女子)

★最初はちゃんとした道でらくでしたが、だんだんと石ができてゴロゴロで、下ったり登ったりたいへんでした。楡形山に登るのは初めてでした。山の上でおにぎりをたべるのも初めてで、いつもよりおいしくかじりました。(5年女子)

ステキな感想をありがとう。6年生のみんな、来年は芦安中学校の全校登山で会いましょう！5年生は栗沢山で！

歴史的、記念に残る「南アルプス開山祭」

～ユネスコエコパークの登録を受け～

今年も南アルプスに夏山の季節がやってきました。南アルプスの夏山は、毎年行われる「南アルプス開山祭」から始まります。6月28日(土)、小雨がシトシト降るあいにくの天気でしたが、広河原のインフォメーションセンターには、中込市長をはじめ、大勢の参列者が集結しました。また、広場には式典に使われる「蔓払い」が開式のときを今か今かと待ち望むようにそびえ立っていました。今年度の開山祭は南アルプスの歴史的の中でも記念すべき式典になるといえます。それは何かといえば、南アルプスが「ユネスコエコパーク(生物圏保存地域)」に登録されたからです。参加者の表情も心なしか、誇りと喜びに溢れているように思えました。

開山祭の主役は、何といても「蔓払い」の大天狗と小天狗といってもいいでしょう。かつて、南アルプスを多くの登山家に紹介した山案内人の衣装を身にまとい、斧と杖で山道の蔓を分け広げます。今年の大天狗役は、南アルプス市議会議員が行い、力強く斧を振り下ろして蔓の結び目を切り落としました。小天狗は、やっぱりファンクラブのメンバーから選りすぐりの2名、望月泰孝さんと渡辺典美さんが行ってくれました。こちらはもう慣れたもの。式典の後には、多くの参加者からの記念写真に応じて、「はい、ポーズ」。本日のヒーローでした。今年もしっかりと登山者の安全を祈願しました。



キタダケソウ観察会

～可憐な花に会ってきました～

式典の後には、「芦安そばの会」の皆様が出してくれたとってもおいしい天ぷら蕎麦とお饅頭、南アルプス市役所が用意してくれた桃に舌鼓を打ち、腹ごしらえに大満足をしたところで、いざいざ出発です。広河原山荘前での出発式で、全員集合。懐かしい笑顔のリピーターの方。夏の縦走の訓練の一つと参加して頂いた一橋大学山岳部(針葉樹会)部員。念願のキタダケソウを一目拝みたいと一念発起して応募して頂いた方と、今回の観察会への思いはそれぞれですが、参加者スタッフ合わせて総勢20名で、キタダケソウ観察会はスタートしました。以下は、ファンクラブの中込スタッフのスナップから、当日の様子を紹介いたします。

記：堀内訓

一日目は小雨が降る中でしたが、元気に出発。雨に濡れた可憐な花たちに励まされながら登ります。



クマバツクバネソウ



キソチドリ



イチヨウラン



ツバメオモト

約3時間で順調に白根御池小屋に到着しました。小屋の前では、温かい甘酒を用意して待っていて下さったので、先ずは一杯ご馳走になり、身体を温めました。部屋に荷物を置き着替えを済ませたら、お待ちかね、恒例の懇親会です。外の雨音も気になりましたが、いつものように大盛り上がり。山の仲間は愉快だな。でも、こんなところで、お酒で遭難しないでくださいよ。

カンパイ!



二日目、目が覚めたら、私たちの期待を裏切るかのような大きな雨粒が絶え間なく落ちてきていました。でも、テレビの天気予報では「快晴に向かっている。」と断言しています。とりあえず、二俣まで行って判断しようということになり、期待を胸に二日目のスタート。「天気予報を信じよう。」

二俣までのトラバースルートに雨に濡れながらたどっていると、なんとなんと、前方に輝く光が差しているではありませんか。「おお、あれぞ、私たちが待ち望んでいた閃光だ。」しだいに、その光は私たちに近づいてきました。二俣に着く頃には、私たちの頭上には、もう、輝くばかりの日差しが降り注いでいました。謎の雨男・雨女さん、さようなら。

気分を良くして、アイゼンを付け、ピッケルを握って大樺沢に挑戦。どうですか？皆さんの笑顔。でも、本当は雪渓に、ちょっと緊張しています。



八本歯のコルを過ぎ、分岐点に着く頃には、心はキタダケソウ色になっていました。かわいいキタダケソウにもうすぐ会える。急登で身体は疲れていましたが、ザックをデボすると、それぞれがカメラを持ってキタダケソウのもとへ。今年のキタダケソウは春先の雨がほどよくお湿りをくれたこともあり、多くの花が私達を待っていました。可憐な花を堪能し、写真も一杯撮り、そして「心に感動」を納め、参加者全員に大満足して頂けました。よかった。よかった。

下山は、雪渓歩きもあるので、慎重に班分けをして下りました。ロープで確保する場面もありましたが、全員無事に広河原山荘にたどり着きました。来年も、多くの方々とキタダケソウを見に行けることを楽しみにしています。



今回初めて参加して下さった方に感想を聞きました！

インタビュー：渡辺典美

長田かおるさん（山梨県）

南アルプス市の観光協会に、「キタダケソウを見に行きたい」と相談したらこの観察会を紹介されました。北岳は2回目です。キタダケソウを見るのが夢でした。雪渓歩きがあり、現地まで行けるか不安でしたが、キタダケソウに出会えて感動しました。

唐沢俊彦さん（長野県）

登山歴は40年。山の数では250山を踏破しています。国立公園指定50周年のイベントガイドでこの観察会を知りました。北岳は5回目。形がいいので好きですね。キタダケソウに出会えて、言葉では言い表すことができないほどの感動を覚えました。

鈴木陽介さん（一橋大学1年生）

高校時代ワンダーフォーゲル部に所属していましたが、雪上でのアイゼンピッケル歩きは初めてでした。北岳も初めてです。キタダケソウを見て、感動しました。透きとおった花びらの白さに感動しました。また、ハクサンイチゲとの違いも勉強できて良かったです。



キタダケソウ

平成 26 年度 芦安山岳館企画展

「南アルプスで また あした」

南アルプス国立公園—

山梨、長野、静岡の3県にまたがり、日本第二位の標高を誇る北岳（3193m）をはじめとする3000m級の高峰を13座も抱えるこの山岳公園は、昭和39年6月1日に国立公園として指定されてから50年という節目の年を迎えました。

年間2000mmを超える雨が降りそそぐ南アルプス。亜熱帯気候の沖縄に匹敵するほどの豊かな雨は、多様な森を形づくり、深い谷を削り出してきました。そこには、厳しい自然環境の中で脈々と受け継がれてきた動植物たちのいのちと、その恵みを享受してきた私たち人間の歴史とが存在しています。

本企画展では、南アルプス国立公園が、豊かな命を育み人々を魅了する場所であり続けられるよう、皆さまと共に南アルプスの“あした”を見つめていきたいと思ひます。

館長 塩沢久仙

どんな展示なの？

50年目を迎えた「南アルプス国立公園」のアレコレを、テーマごとに写真と文章で紹介しています！

- ◆南アルプスに生きる動物や植物、花たち
- ◆南アルプス特有の地・景観
- ◆日本の国立公園
- ◆南アルプス国立公園50年の歴史
- ◆環境保全活動や環境教育

見どころ？

南アルプスの植物・動物・地形・景観などを、大きな美しい写真と共に学ぶことができます。
日本の国立公園についてもご紹介しています！



南アルプスに住むたくさんの動物たちが、待ち構えて…いや、お待ちしています！

南アルプス国立公園50年の歴史を、巨大年表と貴重な写真でふり返ります！



なんと、山小屋？
大正時代の山小屋の設計図を参考に再現しました。こちらでゆったりしながら、南アルプスの特別映像を見ることができます！



南アルプスへのあなたの想いを書きのこしていきましょう！

いつまで？

期 間 平成27年5月31日(日)まで
時 間 9:00~17:00 ※水曜休館
入館料 大人300円 小人200円

活動
報告

「ビロードモウズイカ」除去作業

南アルプス市役所みどり自然課 杉山啓子

芦安ファンクラブの清水圭一さんから、ビロードモウズイカの除去作業をしたいので市でも支援をしてほしいと話があったのは、南アルプスがユネスコエコパークに登録されて間もなくのことだった。初めて聞く名前に何度か聞き直しながら、それが帰化植物であることや、御勅使川河川や隣接する道路沿いに急速に繁茂し始めていることがわかった。

早速教えられた場所に行ってみると、背丈が高く太い真っ直ぐな茎先に、長い穂状の花序を出して多数の黄色い小花を付けている植物がそこかしこに林立し、「いったい、いつから、こんなに」と初めてみる光景に、芦安へ向かう道を何度も車を走らせていながら気付かなかったのかと、愕然とした。



ビロードモウズイカ



日入倉橋周辺に繁茂する

清水さんによると、数年前から南アルプス林道沿いでビロードモウズイカの繁殖がポツポツと確認されており、気づいたときに、車を止めて抜根していたという。数年前からは、芦安入り口の日入倉橋付近で、このビロードモウズイカが確認されていて、橋を渡りきったところから、上流部に向かって約500mの範囲で、道路沿いや河川敷に異常な速さで繁殖が広がっている。

ビロードモウズイカは、環境省が指定する特定外来生物ではないが、南アルプスユネスコエコパークの核心地域の希少種を保護保全するために、侵入を防止する措置が必要である。

このため、植物の結実前に南アルプス登山の入り口である芦安地区の水際で外来植物の侵入を防ぐため、芦安ファンクラブはもちろん、芦安かたくりの会など芦安地区の住民有志を中心に除去作業をしたいので、焼却処分場への搬入など支援をしてほしいというものだった。

7月27日(日)、市役所職員や新聞紙上でも呼びかけ、環境省南アルプス自然保護官事務所の中村保護官や近くに作業場を持つ事業者の参加もあり、除去作業ボランティアは、総勢50余名に膨らみ、作業が行われた。



多くの参加者が集まった

地表面から刈り取ったり、抜き取ったりしたビロードモウズイカは、種子をこぼさないように丈を短くして丁寧にビニール袋に入れ、口を結んで集めていった。1トントラック5台程度の収穫物を前に、この日の作業を終えた。



作業の様子

南アルプスユネスコエコパークは、南アルプスの豊かな生態系や生物多様性を保全し、自然に学ぶと共に、文化的にも経済・社会的にも持続可能な発展を目指す取り組みが世界的モデルとして認められたものである。帰化植物の除去作業は、ユネスコエコパークとして、南アルプスの自然を保全するために、人や地域が関わってすすめるその第一歩である。

登山案内人から登山ガイドに呼び名は変われど…想いを繋ぐ

南アルプスガイドクラブ会長 清水准一

15年前、芦安ファンクラブが発足し、切り口を山に当てたら登山教室になった。その経緯や必要性はいまさら書くつもりはないが、その受け皿の気質が芦安ファンクラブにあったことは明記しておきたい。ふるさとの宝である北岳をはじめとする山々や大自然を満喫して欲しいと共に、地元ならではの味のある案内に浸ってほしかった。

スタッフの努力も実り、おかげさまで登山教室もこの春で34回を数えた。しかし、大分前から「登山教室ではなく個人やグループでの登山案内を対応してほしい」こんな声が聞こえていた。

そんな時いつも、その昔活躍していた芦安案内人組合の先人たちの姿が思い浮かんで来る。大正から昭和の前期にかけて、近代登山時代を裏方として支えてきた^{つわもの}強者たちの集団だ。案内人は冒険としての登山から競い合う登山まで従順に対応し、遭難救助などでも活躍していた。芦安の^{おおぞうり}大曾利地区だけでも名取治太郎、名取久平、深澤義長、青木要造らの名があがり、その人達をまとめていた青木久治郎おじい、私の家のすぐ前で店を営んでいた。うろ覚えに見た光景は、昭和27,8年頃、大きなキスリングを背負った若者たちが周辺に集い朝早く山に出かけて行く姿だ。当然、組合の誰かが案内していたことだろう。冬は大きな釜で桧の枝を煮込んでワカンジキを作っていた。当時はその需要も多く、桧で作った芦安ワカンは軽くて丈夫と人気があったらしい。あのころから60年か…

昨年、足元からヤマドリが舞い立つが如く、ガイド組織の話が持ち上がった。南アルプス市、富士川町、早川町で構成される「南アルプスネイチャー王国プロジェクト協議会」のガイド部会に好機が訪れたのだ。実は、山岳館館長の塩沢氏と私は、この協議会で「地域ガイド」は今後必ず必要になると、ことあるごとに唱えていたのだった。

3市町から25人のガイド希望者が集まった。日本山岳ガイド協会講師による1年間の実地研修を終え、プロ仕様の登山ガイドと自然ガイドが誕生した。ロープワークやガイディング、積雪の中での登下降支援、自然解説術、どれもハイレベルであり、研修は緊張感漂う日々の連続だった。

会員の努力の甲斐あって、この春団体加盟が承認され、「南アルプスガイドクラブ」が誕生した。団体加盟の条件には以前からのガイド活動の実績が求められる。芦安ファンクラブの登山教室が、ガイドとしてのスタッフを育ててきたことが実った。

会員は研修受講に掛かる費用の一部を協議会や芦安ファンクラブから支援していただいた。厳しい修練や緊張の中ではあったが、この負担の軽減や励ましは何にもましてありがたいものだった。早速、地域の宝さがしが始まり、今までなかったガイドコースの商品化が始まった。北岳をはじめとする高山はもとより、櫛形山、高尾街道など南アルプス市文化財課の協力をいただきながら、すでにいくつかの公募が始まっている。飛び入りのガイドも柔軟にこなして少しずつ歩み始めている。この秋、10月4日には当クラブ主管の日本山岳ガイド協会による「百万人の山と自然、安全のための知識と技術」の公開講座が南アルプス市内で開かれる。また、来年には約100人規模の全国代表者会議をこの地域で行うことが新会員の慣例になっている。会員の全国レベルのスキルアップと組織の構築が今後の楽しい課題ではあるが、地域ガイドとしての使命を忘れず、先人たちの想いに恥じないようにこの事業を受け繋ぎ歩んで行きたい。多くの支援者に感謝するとともに、今後もあたたかく見守っていただけるよう願います。



団体加盟承認式にて



ガイド中のひとコマ

芦安ファンクラブからは12名のガイドが誕生しました。

登山ガイドステージⅡ（積雪期を含む一般登山道でのガイド）

清水准一・井口功・望月泰孝・高妻潤一郎

井上佳之・塩沢顯慈・五十川仁・中込景子

登山ガイドステージⅠ（積雪期以外の一般登山道でのガイド）

杉山弘卓・花輪初代

自然ガイドステージⅡ（積雪期を含む森林限界以下でのガイド）

深沢健三・渡辺典美

南アルプスガイドクラブ

フェイスブックにて活動報告や公募登山のお知らせをしています！ガイドの依頼もお待ちしています。

 <http://www.facebook.com/magc3193>

 magc3193@gmail.com

 080-6653-5418